令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科２（修復系）

第３期中期目標･中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

□１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
□２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
■３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
□４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
□５．その他

研究期間：2017 年 11 月 8 日～2021 年 3 月 31 日

研究課題名：顎顔面骨折の診療実態と治療成績に関する多施設共同観察研究

研究課題の概要及び成果：

顎顔面領域の骨折は、口腔外科診療において遭遇する機会が比較的多い疾患であり、医療機器や技術の進歩、社会状況の多様化に伴う患者層や受傷原因などの諸要因の変化に応じながら、**外傷により低下した顎口腔機能の回復、その後の維持をサポートすることが**われわれに求められている。

同骨折治療に際し、患者の背景、骨折の状態、治療方法などの様々な要因が、治療経過にどの程度関連しているのかを過去の実績をもとに把握しておく必要がある。しかし、従来は単一施設からの報告が大半であり、症例数が限定されているため、上記の関連性が充分に示されていない。われわれは、当科および関連施設による多施設共同研究を実施することで上記関連性を明らかにし、顎顔面骨折の治療成績をさらに向上させることを目指している。

本年度、下顎骨関節突起骨折手術の治療成績（顔面神経麻痺リスク）についての多施設共同研究が、ドイツ口腔科学分野の基盤誌である Clinical Oral Investigations に掲載された。わが国発の関節突起骨折手術の論文としては、最多の症例数（102 例）を擁する。合併症リスクの観点から関節突起骨折術式分類を新規に提唱し、縦断的に検証したものである。

Imai T, Fujita Y, Takaoka H, Motoki A, Kanesaki T, Ota Y, Chisoku H, Ohmae M, Sumi T, Nakazawa M, Uzawa N
Longitudinal study of risk for facial nerve injury in mandibular condyle fracture surgery: marginal mandibular branch-traversing classification of percutaneous approaches
Clin Oral Investig 24:1445–1454, 2020

上記概要・成果に関連する図表等

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

□　関連がある
■　関連はない